文部科学省
大学入学者選抜改革推進委託事業
（主体性等分野）

代表大学　関西学院大学

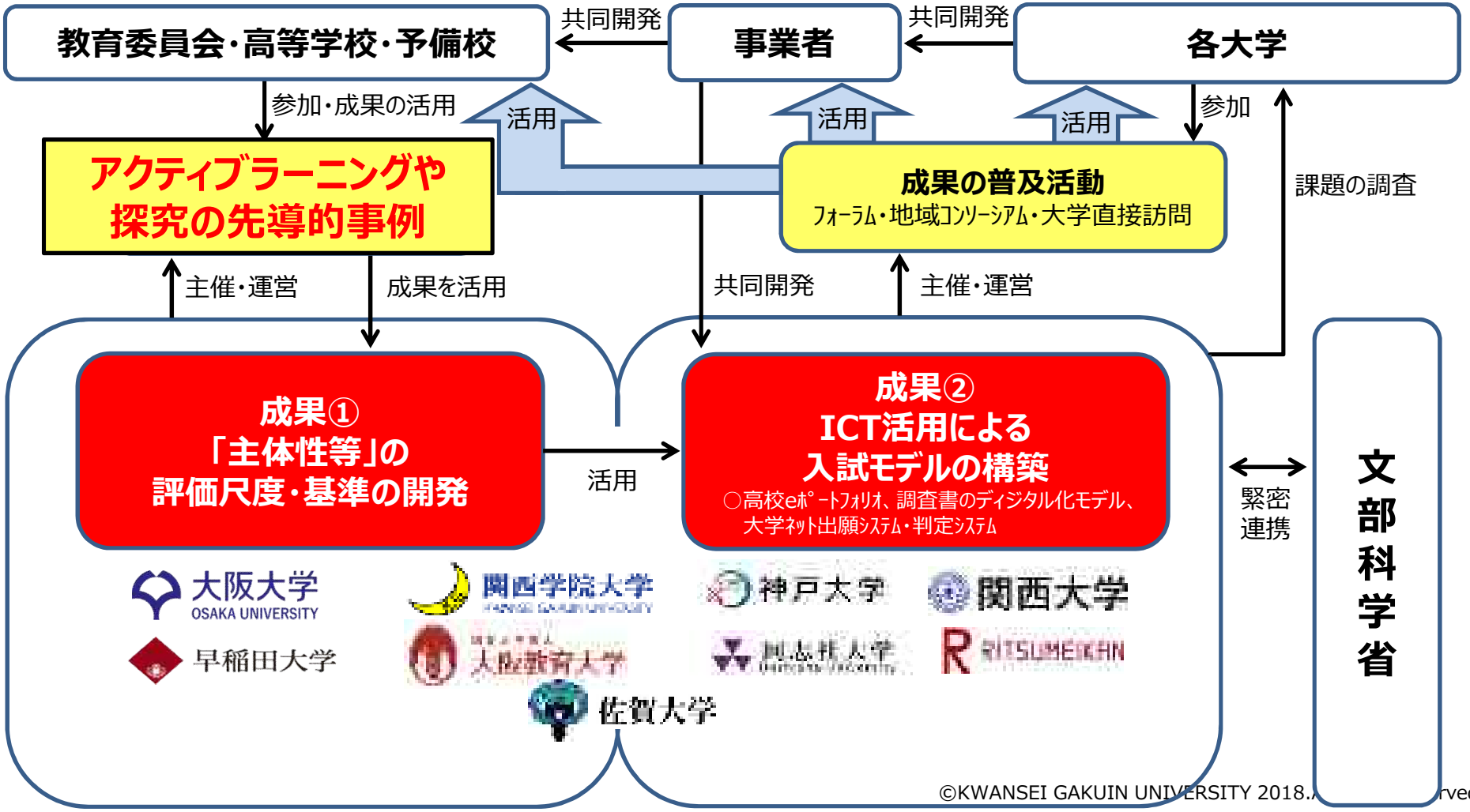
©KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY 2018.All rights reserved

文部科学省
大学入学者選抜改革推進委託事業
（主体性等分野）
～主体性を評価するために～

出典：空 - GATAG｜フリー画像・写真素材集 3.0

事業名称：「主体性等」をより適切に評価する面接や書類審査等 教科・科目によらない評価手法の調査研究
取組大学：関西学院大学（代表校）、大阪大学、大阪教育大学、神戸大学、佐賀大学、早稲田大学、同志社大学、立命館大学、関西大学
対象分野：主体性等分野

事業概要 学力の3要素の「主体性等」をより適切に評価するため、教育委員会、高等学校等と連携し、調査書・提出書類や面接等を実践的に活用する方法、高校段階でのeポートフォリオとインターネットによる出願のシステムの構築、「主体性等」の評価尺度・基準の開発等を行う。



©KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY 2018.

「主体性等」の評価尺度・基準の開発

出典：空 - GATAG｜フリー画像・写真素材集 3.0

本委託事業で取り組んできた研究

研究（１）JePに搭載する「探究の入力項目」に関する調査

【調査目的】
・探究活動における「主体的な学習活動」を明らかにする
・JePへの入力方法を検討する

【調査対象】
・全国のSGH/SSHで「課題研究」を担当する先生方
・全国の国公立及び本事業に関連する私立大学の先生方
・一般企業の人事担当の方々

【調査プロセス】
（1）「主体的だと感じる行動」に関する自由記述式の質問紙調査
（2）KJ法を援用してコーディングし，高校教員・大学教員・人事担当に共通する「主体的行動群」を作成
（3）主体的行動群から，主体的行動例の81の質問項目を作成．５件法の質問紙調査を実施
（4）探索的因子分析を行い，主体的行動の背景にある共通因子を探索

©KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY 2018.All rights reserved

【調査プロセス】

（1）「主体的だと感じる行動」に関する自由記述式の質問紙調査

（2）KJ法を援用してコーディングし，高校教員・大学教員・人事担当に共通する「主体的行動群」を作成

【調査対象】

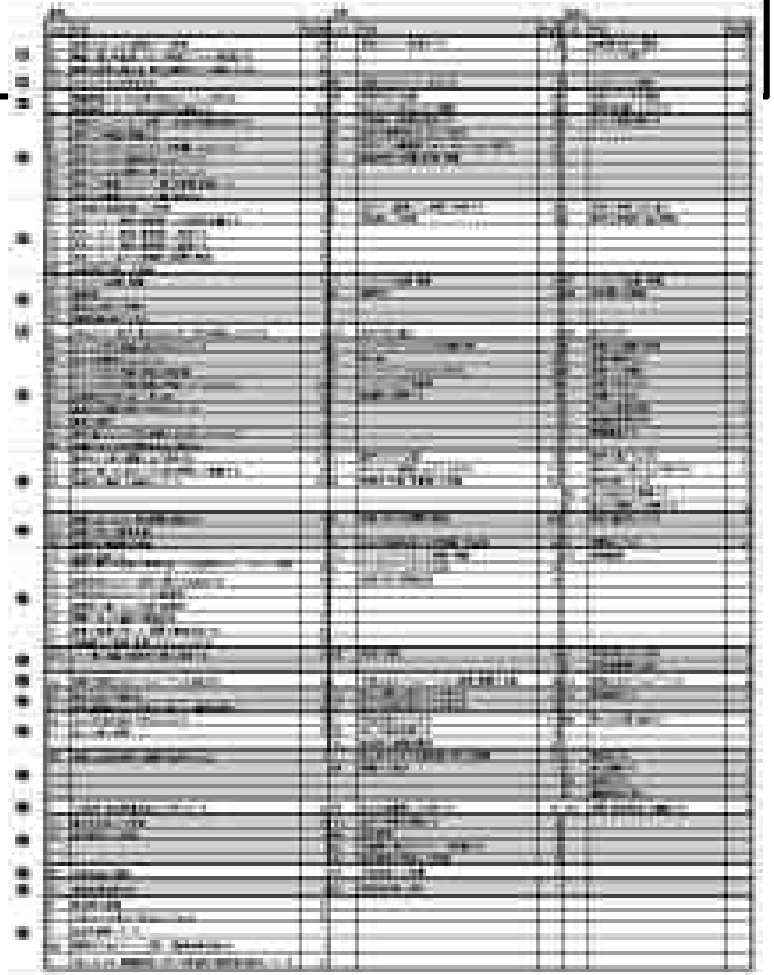
高校教員（全国SGH／SSH145校）　：1250名

大学教員（全国国公立，私立108校）：699名

人事担当（全国207名）　：207名

【結果】

コード名と数値を高校／大学・企業ごとで整理



高校／大学／企業に共通するカテゴリーを作成

© Kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

【結果】

分類結果の内訳から，質問項目を作成

スケジューリングを行える	⇒	Aが学習（仕事）のスケジューリングをする
学習のスケジュールを立てる		
スケジュールを創る		

例）

高校／大学／企業全てが学習者の「スケジュールを立てることができる」行為に対して主体性を感じる

↓

「A（生徒・学生・社員）が学習（仕事）のスケジューリングをする」という項目を作成

↓

この作業を繰り返し，81の質問項目を作成

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

【調査プロセス】

（3）主体的行動群から，主体的行動例の81の質問項目を作成．５件法の質問紙調査を実施

（4）探索的因子分析を行い，主体的行動の背景にある共通因子を探索

【調査対象】

高校教員（全国SGH／SSH　計215校）　：1700名

大学教員（全国国公立，私立　計165校）：1383名

人事担当（全国207名）　：207名

【分析】

・記述統計量の確認（天井効果，フロア効果の確認できたものを削除）
・最尤法，プロマックス回転
・高校教員／大学教員／人事担当の共通因子をそれぞれ探索

・それぞれ，５～８の因子を抽出　＊一部適合度検定の結果が有意であったため，因子の数に関しては要検討

【考察】
・因子を解釈し，名称をつけた後，高校教員／大学教員／人事担当で比較
・JePの既存の項目と照らし合わせて，修正箇所に関する検討

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

【分析】高校教員の回答から抽出された因子の例

Q67　生徒が教員に対して挨拶をする
Q51　生徒が学習で用いた機材等の片付けをする
Q45　生徒が決められた時間より早く教室に来る

学びの場に対する礼儀

Q62　生徒が海外で実施される学会や研修に参加する
Q61　生徒が海外留学をする
Q53　生徒が海外で研究を実施する

海外での研究に関する学び

Q69　Aが学外でのアンケート調査等を実施する
Q14　Aが学外でのアンケート調査等を希望する
Q01　Aが学外の当該テーマについて詳しい人達にヒアリングを依頼する

データ（一次）収集

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

【分析】大学教員の回答から抽出された因子の例

Q62	学生が海外で実施される学会や研修に参加する
Q53	学生が海外で研究を実施する
Q35	学生が外国語でのプレゼンテーションにチャレンジする
Q15	学生が外国語で論文・レポート等を作成する
Q61	学生が海外留学をする

海外での研究に関する学び

Q51	学生が学習で用いた機材等の片付けをする
Q67	学生が教員に対して挨拶をする
Q45	学生が決められた時間より早く教室に来る

学びの場に対する礼儀

Q28	学生が作成した研究計画を実施する
Q08	学生が研究の計画を作る
Q65	学生が取り組みたい研究のテーマを設定する
Q42	学生が事前に行った調査に基づき，研究のテーマを設定する

研究のテーマ設定と計画・実施

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

【分析】社会人の回答から抽出された因子の例

Q7　社員がグループで仕事に取り組む際，積極的に自分の意見を他者に発信している
Q5　社員が会議等で積極的に発言する

意見の発信

Q67　社員が上司に対して挨拶をする
Q51　社員が仕事で用いた機材等の片付けをする
Q43　社員が仕事に必要な機材等の準備をする
Q60　社員が上司に対し仕事に関する報告・連絡をしてくる

職場に対する礼儀

Q61　社員が海外留学をする
Q53　社員が海外で仕事を実施する

海外での仕事

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

【考察】高校教員／大学教員／企業の比較から

高校教員／大学教員／企業に共通するもの

「礼儀」因子

「海外での学び」因子

高校教員／大学教員に共通するもの

「研究活動計画・実施」因子

「一次データ収集」因子

大学教員／企業に共通するもの

「プレゼンテーション」因子

「自己の主張の発信」因子

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

現実的にJePに情報搭載の可能性を検討できるもの

○

（知識・技能）

「海外での学び」因子

「研究活動計画・実施」因子

「プレゼンテーション」因子

「一次データ収集」因子

△

（知識・技能）

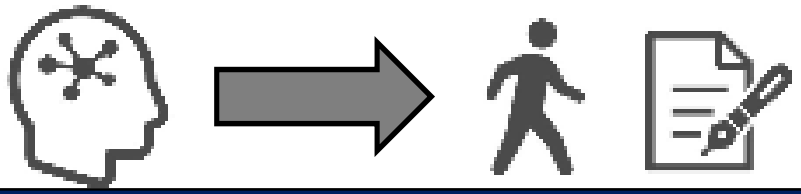
「自己の主張の発信」因子

×

（態度）

「礼儀」因子

（認知活動における主体性）　（行動）



「主体的に〇〇した結果」としての情報

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

実際に現在JePで設定されている項目との比較

「研究活動計画・実施」因子

- 研究目的・内容の概要
- 研究テーマ設定
- 研究開始・終了日
- 参考文献

「一次データ収集」因子

- フィールドスタディ
- 実験
- 調査

「プレゼンテーション」因子

- 論文

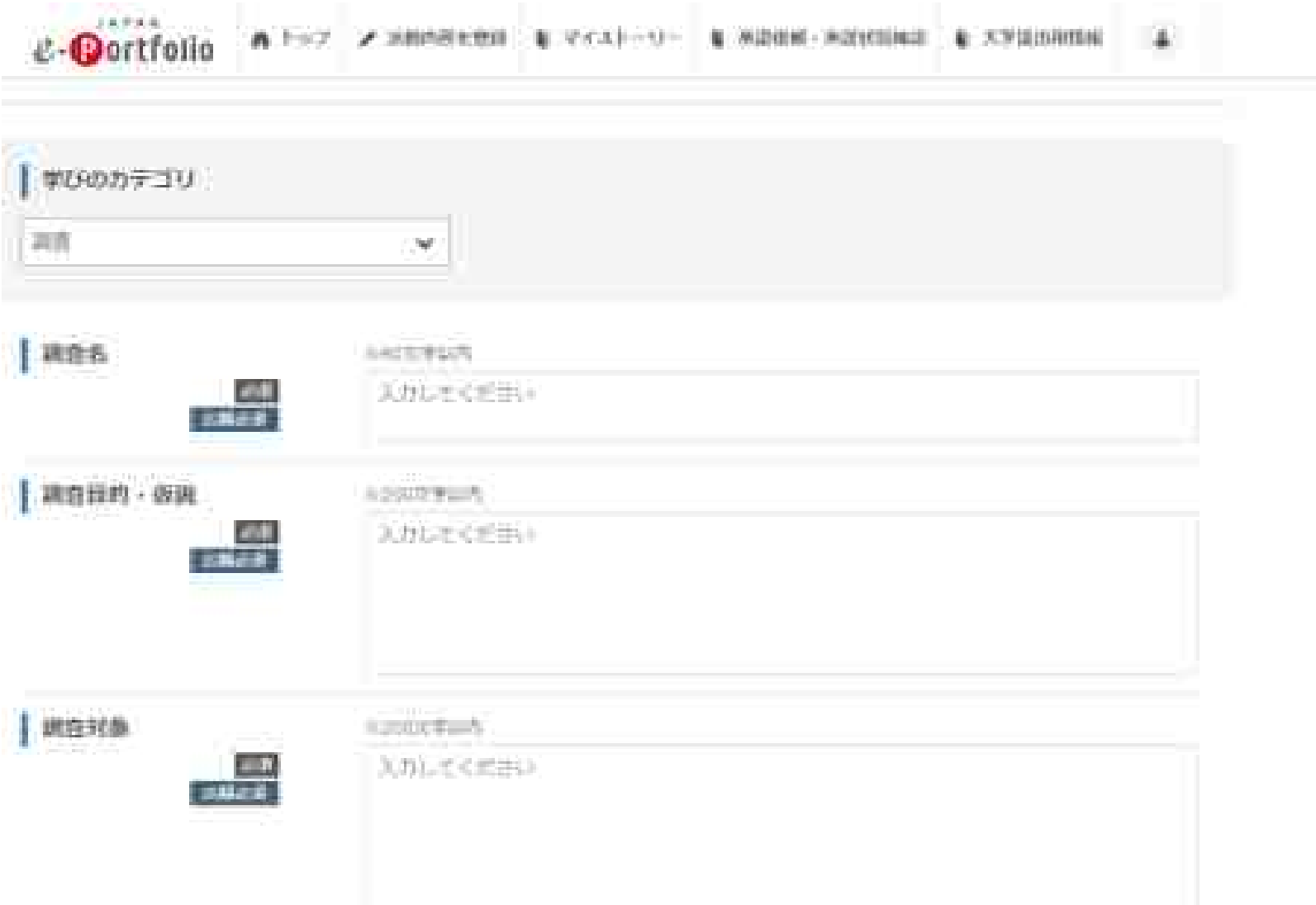
「自己の主張の発信」因子

- 発表の記録

- コンクール・テスト・大会の結果

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

「調査」に関する項目の例



© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

「調査」に関する項目の例

「主体的に実験した結果」を，都度入力して蓄積していくことができる

2017. All rights reserved.

「海外での学び」因子　の場合　　例）海外のコンテスト等

大会の名称等

開催情報

規模

予選

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

「海外での学び」因子　の場合　　例）海外でのフィールドスタディ等

目的

滞在場所情報

受け入れ期間

プログラム詳細

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

研究（２）SGH甲子園における調査研究

【調査目的】

・探究活動における学びの記録の詳細を明らかにする

【調査対象】

・全国のSGHでSGH甲子園に参加される学校の担当の先生方

研究（３）有識者（研究・教育現場関係者）へのヒアリング

・JePの現在の搭載項目で主体性を評価することが可能な項目・困難な項目に関するヒアリング調査

©KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY 2018.All rights reserved

ICT活用による入試モデルの構築

～高大接続ポータルサイト JAPAN e-Portfolio～

出典：空 - GATAG｜フリー画像・写真素材集 3.0

文部科学省資料を改訂し作成

成果② ICTを活用し「主体性等」を評価する 「高大接続ポータルサイト JAPAN e-Portfolio」

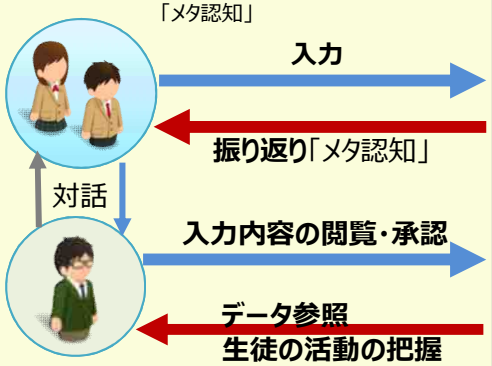
高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」（文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業（主体性等分野）の成果②）

機能① 高校eポートフォリオ機能（学びのデータベース）＜高校教育改革に活用＞
・・・（高校1年生～3年生）学びに関するデータを節目節目で蓄積する機能。

機能② 大学Web出願ポータル機能＜大学入学者選抜改革に活用＞
・・・（高校3年生）蓄積した情報を活用して、大学に出願する提出データをまとめる機能。

高等学校教育改革

○**生徒**：「学びのデータ」の記録・振り返り
自らの学習活動を振り返り次につなげる主体的な学び
「メタ認知」



○**教員**：生徒の「学びのデータ」の参照・把握

○平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直し予告への対応

○平成34年度新学習指導要領への対応

JAPAN e-Portfolio 高大接続ポータルサイト

「高校Eポートフォリオ」

【１～３年次】
あくまでも教育ツール（ポートフォリオ・データベース）として活用。
○入試の出願データは出願時に編集することができる。

【JAPAN e-Portfolio を使っていない大学も】
ポートフォリオとしてJAPAN e-Portfolioに蓄積された情報を活用して、大学出願時提出書類を作成することができる。

連携

大学入学者選抜改革

インターネット出願システム

ディジタル化されたデータの入試活用

①「成果」に関するデータ

②プロセスに関するデータ

○提出書類
調査書 等

○センター試験成績データ

※インターネット出願を実施していなくても主体性等データを受領可能

合否判定

一般入試

ＡＯ・推薦

制度改革

入学者確定

大学教育改革

三つのポリシーに基づく大学マネジメント

APの評価に入学前後のデータ活用（IR）

入学者選抜で使用した各種データ

大学入学後の学業成績、各種活動実績、就職先等のデータ

○ＡＰ評価指標・基準等の検証
○三つのポリシーの検証

JAPAN
e-Portfolio
その先へ。意思と可能性をつなぐ架け橋。
JAPAN
e-Portfolio
高大接続ポータルサイト
生徒向けログイン
先生向けログイン

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

JAPAN e-Portfolioの高校生の利用

１．平成31年度入試での実証事業

参画大学　111大学（入試利用　10大学）

※当初目標数30大学

２．高等学校利用数（2019年３月1日現在）

平成33年度入試に向け、平成30年度入学生から本格利用する高等学校が増加。

〇生徒利用数　１６万４，９１１人

〇利用高校数　3,２６６校

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

JAPAN e-Portfolio参画大学一覧

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

JAPAN e-Portfolioの特徴

〇米国のCoalition、COMMON　APLI、英国のUCASのようなデータベース、ショーケースの日本版。

〇出願時の3年次ではなく1年次から入力を開始する。

〇入力項目は、「探究活動」「生徒会・委員会」「学校行事」「部活動」「学校以外の活動」「留学・海外経験」「表彰・顕彰」「資格・検定」を設けている。特に探究活動について重点化を図る。

〇全ての項目について、「振り返り」「気づき」に関する入力領域を設けている。

〇それぞれの項目で、エビデンスとなる画像データ、プレゼンデータ、論文データなどを添付できるように配慮している。（10ＭＢ　5ファイルまで。ファイルは一般的に生徒が利用する形式のものに対応。写真や動画についても可能。）

〇資格・検定については６００種類を搭載している。※実業校でも活用可能。

〇英語検定試験については、4技能に対応（検討中）。

〇閲覧する側（高校教員）は定められた校内のPCのみから閲覧可能。PDFで出力可能。

〇入力する生徒はスマートフォン、タブレット、PCを利用して入力する。

〇データは最終ログインから5年間保持。

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

「高校教育改革の
ツールとして」

～学習指導要領改訂の内容～
「主体的・対話的かつ深い学び」

【大学は「主体性」として
何を評価しなければならないか】

出典：空 - GATAG｜フリー画像・写真素材集 3.0

高等学校教員との対話から

１．「学習者が主体となる高校教育改革のためのツール」として（高１～高３）

①学びの記録を残すデータベース。
※生徒達は記録を取ってない。記録をしていても紙ベース。
②質の高い振り返りのためのツール（ポートフォリオ）として活用。
※生徒が入力したものを入試にそのまま使わない。

２．「学びの記録を活用した出願資料作成のためのツール」として（出願時）

①現状でも入試では多くの資料提出が求められている。
生徒が蓄積したデータを参照しながら提出資料を作成できる。
②蓄積したデータを清書して、提出資料を作成する。

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする学び に向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得 ― 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における**「カリキュラム・マネジメント」**の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない。

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

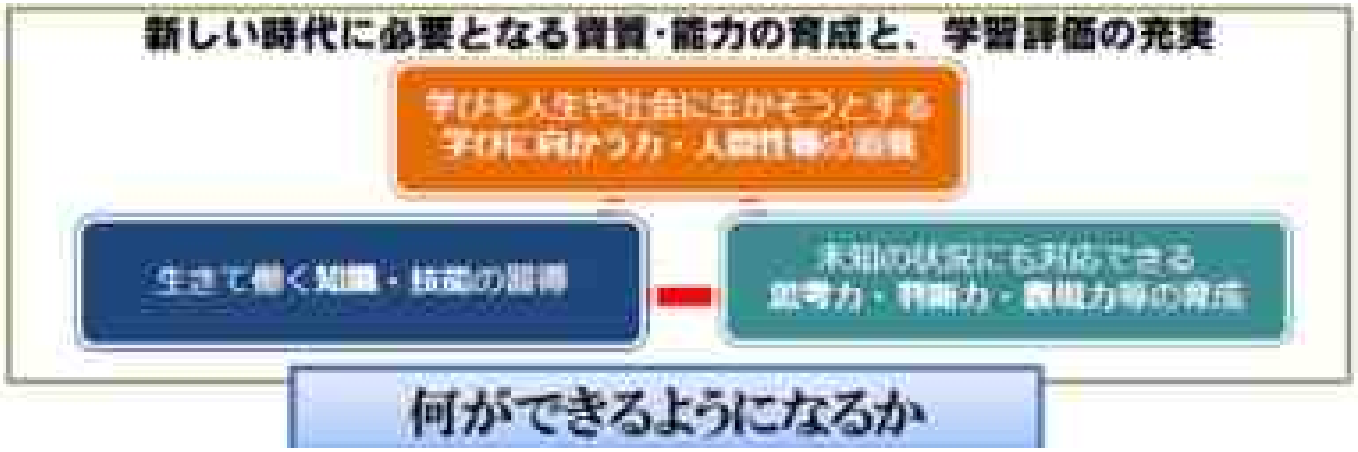
生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

※教科等については、基本的な事項が知識の確認だけで入学試験問題で問われることは稀になっており、そうした点を問題とするため、教育内容の質的改善を図るための高大接続改革等を進める。

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

学びに向かう力の評価に向けて



学習評価の充実・３つの資質・能力をどう評価するのか

○知識・技能

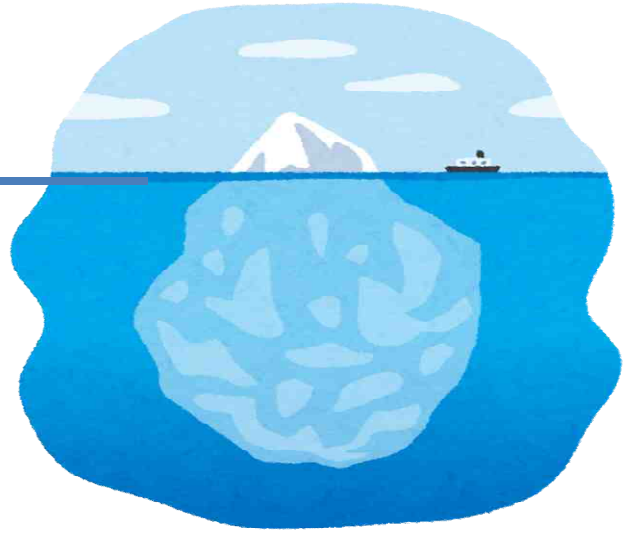
⇒　ペーパーテスト、レポート

○思考力・判断力・表現力

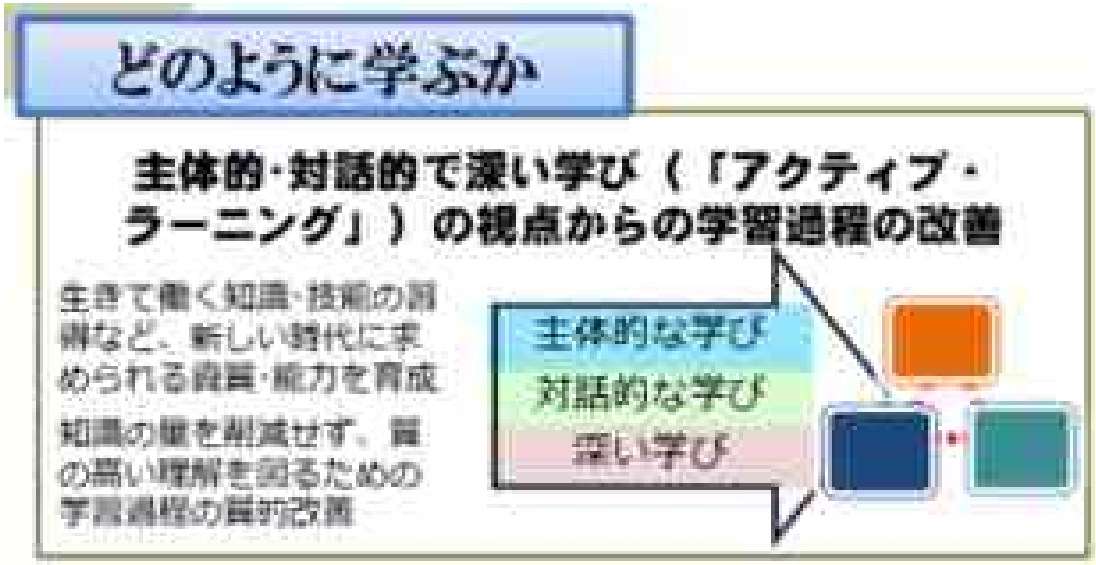
⇒　ペーパーテスト、レポート、インタビュー
（面接・口頭試問・集団討議）

○学びに向かう力・人間性

⇒　行動観察？インタビュー？（客観的か？）
個人内評価・生徒自身の記述から
「学びに向かう力・人間性」を評価
【ポートフォリオ評価への期待】



© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.



「主体的・対話的で深い学びの実現」

～人が生涯にわたってものを学んでいくということ～

〇【主体的な学び】学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

〇【対話的な学び】子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

〇【深い学び】習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

出典：「アクティブラーニング」を考える　教育課程研究会編著
「刊行に寄せて」 文部科学審議官　小松親次郎　より引用・抜粋

© Kwansei Gakuin University 2017. All rights reserved.

「探究」における活用

e-Portfolio　MENU

探究活動

基本情報1

授業科目

総合的探究の時間

研究テーマ

水資源についての考察

研究目的・内容

国連によると、工業化、環境破壊、水の需要、人口増加が新鮮な水の供給の妨げになっています。水不足はすでに様々な国々の間に緊張関係をまねいています。2025年に、世界の人口の3分の1が、水不足に陥る状態になっていると予測しています。そのほとんどが中東、アフリカの東部や南部、インドの西部や南部、中国北部といった、発展途上国の人々になりそうだといいます。国際的な課題でもある水資源の問題について考察します。

テーマを選んだ理由

人間が生きていくために必要なもの。日本では蛇口をひねれば知ることのできる新鮮な水が出てきますが、これは世界的には当たり前の事とは言えないと学び大変関心を持ちました。水資源の問題について学び解決の方法を考えたいと考えテーマとしました。

開始日

2017年05月08日

開始日

2017年05月08日

終了日

2016年02月08日

研究のふりかえり・今後に活かしていきたいこと

水資源に関心を向け多くの事を学ぶことができた。海外資料での水資源の問題について多くの事を学んだ。学び深めるにしたがって、日本における水の問題に強く関心を持つようになった。特に水道事業の民営化について強い疑問を持つようになった。ビジネスの視点、行政の視点、国の視点、環境の視点と様々な視点があることに気づいた。特に国の視点については水に関わる多くの法律があり、これが内容に応じて所轄官庁が異なっている事を学ぶことができた。

生徒の振り返りに関する記述から学びに向かう力を評価する。

学びのデータ一覧

2017年01月26日 ～ 2017年01月26日
神戸市水道局上下浄水場

2017年06月06日 ～ 2017年06月07日
※資源をかんがえる（「海洋」中学）大阪本

2017年10月30日 ～ 2017年10月30日
関西学院大学神戸三田キャンパス

学びのデータを追加

探究成果とプロセスを評価するために

○論文、発表の記録、コンクール、コンテスト、大会の結果が探究の成果としての評価の対象となる。

○成果を適切に評価するために、プロセスを評価する。※総合型選抜、推薦型選抜であればインタビューで評価することになる。

一例）

①参考文献（書籍・論文等）でどのようなインプットをしたか、どのくらいのインプットをしたか。

②実験の記録やデータから様々な点が読み取れる。

③研究室訪問や専門家の意見聴取によりリフレクションや、マインドセットされた姿が見て取れる＊

④フィールドスタディや調査の中味から探究のレベルを測ることができる＊

＊島嶼部や農村などが不利ではない。都市部ではできない取り組みが可能。それぞれの地域に根差した社会に開かれた教育課程。多様性が評価される。

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

高等学校ごとのメソッド確立？（カリキュラム構築）

①学習指導要領に基づき、
②高等学校の建学の精神、人材育成の目標に従ったカリキュラム構築
③カリキュラムの目的に沿ったアクティブラーニングの実践。

「成果をどう評価するか。」
（過　去）紙での生徒向けアンケート
授業担当者がアクティブラーニングの実践結果に基づいて授業改善。
※他の教諭との情報共有ができないため、同じ失敗が繰り返される可能性。

（これから）ポートフォリオの活用（データベース化・学びの可視化）
アクティブラーニングの実践結果を全体で共有し授業改善。
※成功例も失敗例も共有でき、全体で改善が可能となる。

☆高等学校ごとのメソッドが確立する。
☆さらに地域との協働による教育課程で高等学校の特色が発揮される。

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

「カリキュラム・マネジメント」のために

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現
各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

カリキュラムマネジメント

① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。

② 教育内容の質の向上に向けて、**子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等**に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立すること。

③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

中央教育審議会教育課程特別部会「論点整理」2015年8月26日より

アクティブラーニングとカリキュラムマネジメントと学校経営の展開

○カリキュラムマネジメント…組織の運営の改善を目指すもの

○アクティブラーニング・・・授業の改善を目指すもの

○教育課程を核に、教育活動や組織運営の不断の見直しを図っていくためには、子供たちの姿や地域の現状等を把握できる調査結果や各種データ等が必要となる。

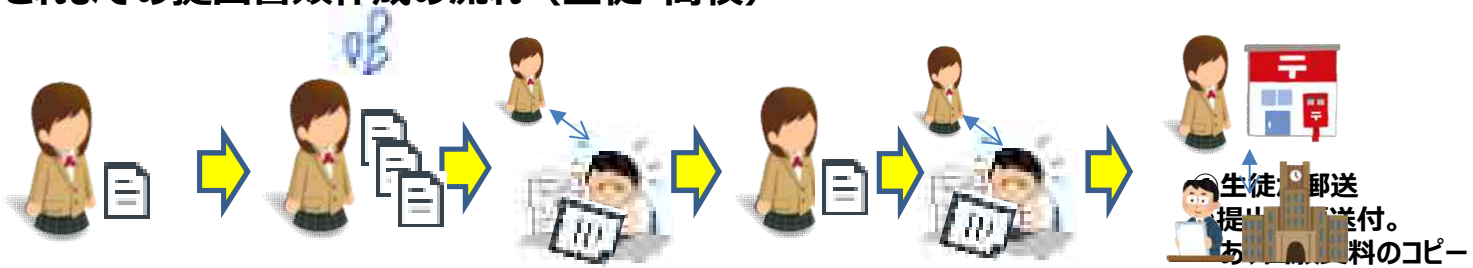
学びの成果の可視化（ポートフォリオの活用）

○データにもとづく分析と改善、PDCAサイクルによるマネジメント。

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

高等学校における「働き方改革」に向けて

これまでの提出書類作成の流れ（生徒・高校）



①生徒は出願先が決まり提出書類の作成にかかる。

②過去の学びの資料集めを行う。⇒資料が散逸。「思い出せない」「証明書のコピーがない」

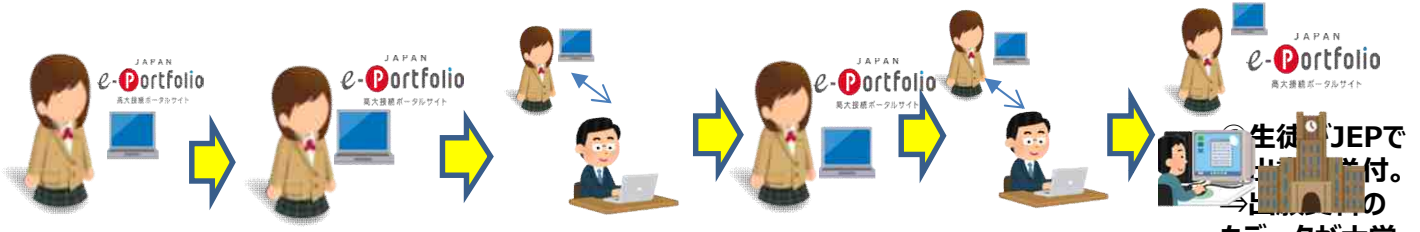
③なんとか提出書類完成。（先生）内容をチェック＆アドバイス（中には把握していないものも）

④アドバイスに従って書き直し。添付する証明書も先生からもらえた。

⑤提出書類完成。先生に最後のチェックを。

⑥生徒は郵送提出[illegible]送付。あ[illegible]料のコピーを取り忘れた・・・。

これからの提出書類作成の流れ（生徒・高校）



①生徒は出願先が決まり提出書類データ作成にかかる。

②JEPの学びのデータから提出データ作成。「添付資料も完備」

③提出書類完成。（先生）内容をチェック＆アドバイス（事前に承認していたデータ）

④アドバイスに従って書き直し。先生から指摘のあったデータも残っている。

⑤提出書類完成。先生に最後のチェックを。

⑥生徒はJEPで[illegible]付。→[illegible]のもデータが大学毎にJTBに保管。

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

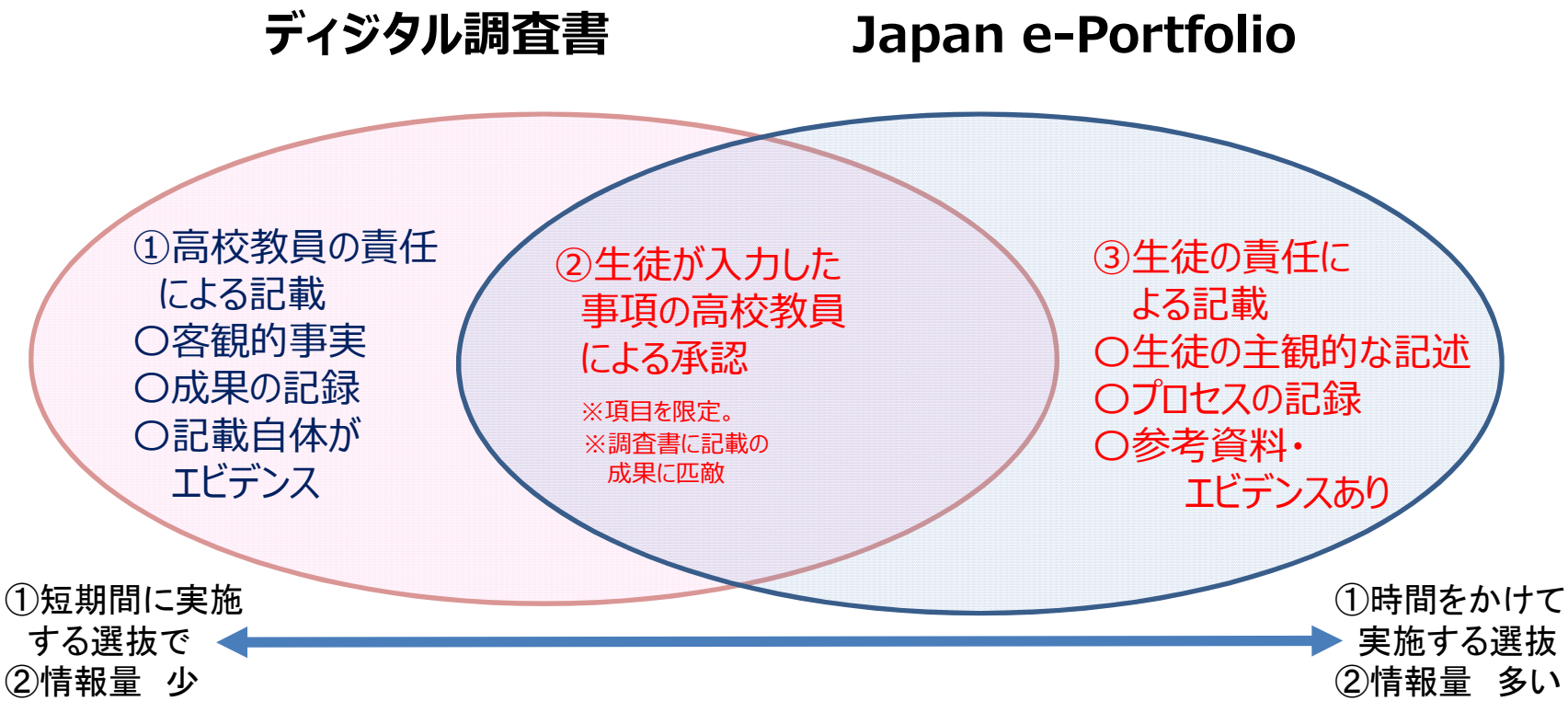
「高校教育改革の
ツールとして」

～学習指導要領改訂の内容～
「主体的・対話的かつ深い学び」

【大学は「主体性」として
何を評価しなければならないか】

出典：空 - GATAG｜フリー画像・写真素材集 3.0

ディジタル調査書とJapan e-Portfolioとの関係



①調査書でできる評価

〇第三者が表彰したコンテストの成果等は、ある程度の「学びに向かう力」を評価ができる。このような成果は、項目を各大学があらかじめ定めてこれをもとに評価できる。
〇記載された成果からだけでは、十分に評価ができないものもある。そのような成果については、得点の重み付けは低く設定せざる得ない。
〇新たな学習指導要領での「主体的、対話的かつ深い学び」で涵養された資質の評価は十分にできない可能性がある。全ての志願者の「学びに向かう力」を評価できない。

ポートフォリオでできる評価

②高校教員の承認したデータは、調査書と同様の評価をすることが可能である。
〇成果とともに、ポートフォリオに記載された、本人の振り返り、プロセス、添付資料から「学びに向かう力」を評価することができる。
〇ひとりひとりの生徒を多様な視点で評価することが可能になる。
〇時間をかけて内容を評価するものについては、一般入試等志願者の多い選抜では不向き。

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

JAPAN e-Portfolioの活用意義

①JAPAN e-Portfolioならではの選抜方法

「成果＋プロセス評価型の入試」が実現

JAPAN e-Portfolioの記載から成果とともにプロセスから、【主体的・対話的かつ深い学び】や【探究】によって涵養された資質・能力を評価する。

例）「探究」により涵養された資質・能力を評価する。

＜成果＞ 論文、発表の記録、コンクール・コンテスト・大会等

＜プロセス＞ 参考文献（書籍、論文等）、実験、研究室訪問、フィールドスタディ、調査

※基本情報の研究目的・内容、テーマを選んだ理由、それぞれの学びのデータに記載された、研究のふりかえり・今後に活かしていきたいことから、「学びに向かう力」を評価する。

※調査書や推薦書、提出書類では把握できない情報がJAPAN e-Portfolioに。

※面接等と組み合わせて多元的・多面的に評価することにより、さらに評価の精度が向上することが期待できる。

※書類だけの審査で成果のプロセスを確認するには、ポートフォリオの活用が最適。

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

②プロセスの評価により成果の事実が見える

１）論文は非常に良くできているが、指導を受けたものではないだろうか。本人はどこまで理解しているか見えない。そもそも、どのように課題設定したのか。

➡文献・論文について、課題に関する研究のためにふさわしいものを選んで読んでいる。課題研究にどのように活かすかについても書かれており、課題設定に向けての努力が見られる。課題について、仮説を立てて実証するための調査やフィールドワークを行っている。現地での振り返りから、苦労が見て取れる。

２）課題研究の論文が共著。志願者はどのような役割を果たしたのかが見えない。他者とどのように協働したのか。

➡論文作成のプロセスが良くわかる。どのような文献・論文を参考にしたのかが判るとともに、大学の研究室の訪問歴から、その大学の教員から受けたアドバイスについての気づきが記載されている。論文作成の振り返りでも、他のメンバーとの議論の内容が見える。

３）実験結果や成果は論文から判ったがプロセスが見えない。

➡実験についての仮説が良くわかる。実験は実際、失敗したようだが、その失敗によって気づきがあり、教員や他のメンバーとのディスカッションや、文献、論文の洗い出しを行い、新たな実験に向けた方向付けが行われていることが見える。

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

③より多様な視点での選抜へ

今までは評価の対象外となっていた項目から「学びに向かう力」を見出す。
〇志願時に本人がアピールした成果について評価を行う。
※大きな大会やコンテスト、資格、ボランティアだけを出願資格とはしない。

事例）

＜成果①＞「修学旅行の企画委員」としての取り組み。
＜評価①＞事業者との対話のなかで、国際情勢や情報収集や分析の重要性を学んでいる。
＜成果②＞「甲子園の予選での応援団長」の取り組み。
＜評価②＞応援団を組織するにあたって、生徒の組織化、応援プログラム、物品の調達などの経験から組織運営について多くをまなんだ。
＜成果③＞「文化祭での部活動（科学部）の企画」の取り組み。
＜評価③＞パソコンでプリクラを作る企画に取り組み、多くの人に喜んでもらった。将来、国連職員のような人のためになる仕事がしたい。
＜成果④＞高校のフィールドワークの取り組み。
＜評価④＞自分が住む島の漁業の体験から、日本の漁業が抱える問題について問題意識を持つようになった。将来は環境に関わる仕事がしたい。

プロセスの可視化で、いままで評価されなかった生徒にスポットライトが当たる。⇒大学はより多様な視点での選抜が可能となる。

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

「JAPAN e-Portfolio のこれから」
～Society5.0に向けた人材育成～

出典：空 - GATAG｜フリー画像・写真素材集 3.0

3. Society 5.0に向けたリーディング・プロジェクト③

i. 『公正に個別最適化された学び』を実現する多様な学習の機会と場の提供

○学習の個別最適化や異年齢・異学年など多様な協働学習のためのパイロット事業の開発

※全国の小中高等学校で実施

- 児童生徒一人一人の能力や適性に応じて個別最適化された学びの実現に向けて、スタディ・ログを蓄積した学びのポートフォリオ（後述）を活用しながら、個々人の学習傾向や活動状況（スポーツ、文化、特別活動、部活動、ボランティア等を含む）、各教科・単元の特質等を踏まえた実践的な研究・開発を行う。（例：基礎的読解力、数学的思考力の確実な習得のための個別最適化された学習）
- また、異年齢・異学年集団での協働学習（例：英語力に応じた異年齢・異学年の協働学習）についても、実践的な研究・開発を行う。
- 「チーム学校」を進める観点からも地域の人材等と連携し、体験活動を含めた多様な学習プログラムを提供する。
- 生徒・学生の学習環境がより個別最適化されるよう、アドバンスト・プレイスメント、飛び入学及び早期卒業等の活用促進を図る。また、学生の様々な学びの意欲を実現させ、学習の個別最適化を進める観点から、各大学におけるギャップイヤーや学外での幅広い学びのための休学の活用を促進する。

○スタディ・ログ等を蓄積した学びのポートフォリオの活用

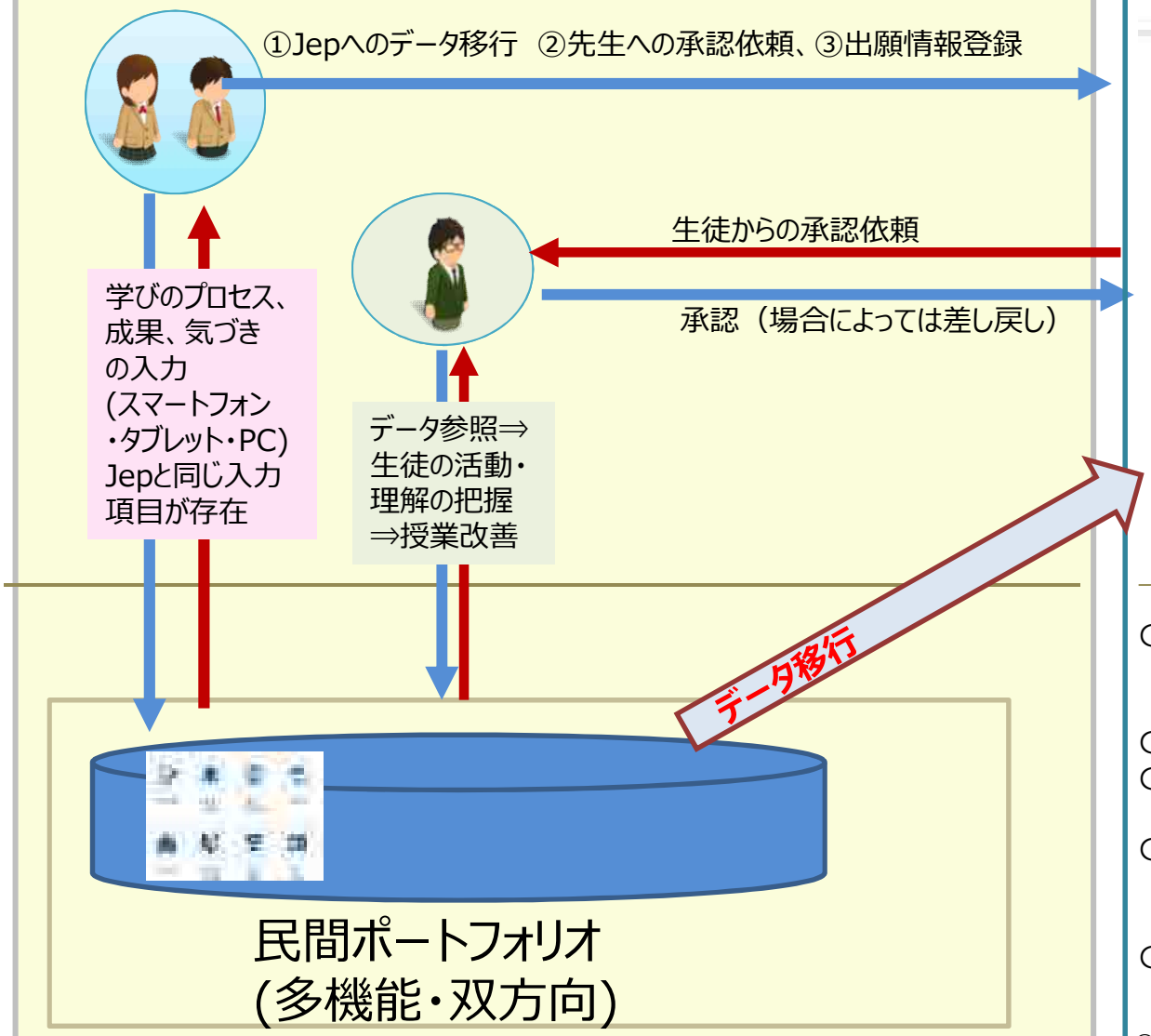
- EdTechを活用し、個人の学習状況等のスタディ・ログを学びのポートフォリオとして電子化・蓄積し、指導と評価の一体化を加速するとともに、児童生徒が自ら活用できるようにする。そのため、CBTの導入を含めた全国学力・学習状況調査の改善、学びの基礎診断の円滑な導入により、個々の児童生徒について、基礎的学力や情報活用能力の習得状況の継続的な把握と迅速なフィードバックを可能とし、評価改善のサイクルを確立する。

○EdTechとビッグデータを活用した教育の質の向上、学習環境の整備充実

- EdTechとビッグデータの活用を推進するために必要なガイドラインの策定、データの収集、共有、活用のためのプラットフォームの構築に関する検討を行う。
- デジタル教科書、デジタル教材、CBT導入等を進める観点からもICT環境の整備やICT人材の育成・登用を加速する。

民間のEd TechとJAPAN e-Portfolio」との連携

民間のEd Techとの連携を行っている。
この場合、ポートフォリオ機能は民間のEd Tech。大学のためのショーケース・データベースをJAPAN e-Portfolioが担うことになる。



○資格・コンテスト・大会情報などをコード化
　大学・高校でコードを共有し調査書のディジタル化・ディジタル活用のために
○ログイン機能によりディジタル調査書の電子認証
○民間ポートフォリオ・ＳＮＳとも連携
　生徒の二重入力の手間を軽減
○検定・資格実施機関、大会運営機関と連携し、生徒の入力情報とのマッチング（教員の負担軽減）
○大会・コンテスト情報のデータベース（平成33年度大学入学者選抜実施要項見直しへの対応）

©KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY 2018 All rights reserved

JAPAN e-Portfolioの運営許可について

大学入学者選抜改革推進委託事業（主体性等分野）（実施期間：平成28年度～30年度）における「JAPAN e-Portfolio」は、平成31年3月31日に事業期間が終了します。

同委託事業の成果物である「JAPAN e-Portfolio」については、平成31年度以降、運営を希望する非営利組織からの申請が、運営許可要件を満たす場合に、文部科学省が「JAPAN e-Portfolio」運営主体（以下、「運営主体」という。）として許可することとなります。

運営主体の許可に当たっては、「「大学入学者選抜方法の改善に関する協議」におけるワーキンググループ」（以下、「ワーキンググループ」という。）において、運営許可要件を設定し、審査を行います。

運営主体による「JAPAN e-Portfolio」の運営に当たっては、別に定める「JAPAN e-Portfolio」運営方針及びワーキンググループにおける意見等を踏まえた文部科学省の指導・助言に従うことといたします。

「JAPAN e-Portfolio」運営許可の申請等に関しては、文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室までお問い合わせください。

出典：文部科学省ウェブサイトhttp://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/senbatsu/1413458.htm

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

JAPAN e-Portfolioの運営方針について

「JAPAN e-Portfolio」運営方針
平成３１年２月８日文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室」より一部抜粋

目的

JeP は、各大学の入学者選抜において、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針を踏まえた入学者受入れの方針に基づき、「学力の３要素」を多面的・総合的に評価するために活用すること及び高等学校教育、大学教育の質の確保・向上に向けた取組みに活用されることを目的とする。

運営主体

JeP の運営主体は、文部科学省から運営許可を受けた非営利組織とする。

運営方法

運営主体は、本運営方針及び「大学入学者選抜方法の改善に関する協議」におけるワーキンググループの意見を踏まえた、文部科学省の指導・助言に従うものとする。

実施開始年度

平成３１年度（２０１９年度）（２０２０年度入学者選抜）

その他

本運営方針に定める事項のほか、JeP の運営に必要な事項については、文部科学省と協定を締結し、当該協定に従い運営を行うものとする。

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.

JAPAN
e-Portfolio
高大接続ポータルサイト

4月より
一般社団法人
教育情報管理機構
が運営の予定

© kwansei gakuin university 2017. All rights reserved.